

2023年8月6日

「一つになるために」

コリントの信徒への手紙一 12:23-27

竹島 敏牧師

使徒パウロが12節と26節で言われていることは「多様性と一致」の問題です。一つの体は多くの部分から成り、そして一つの部分の苦しみは体全体の苦しみであり、一つの部分が尊ばれることは全体の喜びであると。そしてそれが、キリストの体を体現する共同体なのだと述べています。また、13節においては、民族的、階級的な多様性をも、洗礼によって皆一つの霊を飲ませてもらった、一つに統合されたということをパウロは強調します。そこには、「一人一人に霊の働きが現れるのは、全体の益となるためです。」と論されているように、当時のコリントの教会においては、霊の働きが現れた一部の強い者たちの言動が問題となっていたことがうかがわれます。キリストの体を体現するような共同体の形成は難しかった、という現実があったのでありましょう。

確かに教会共同体には、しばしば様々な課題があり問題が起こります。しかし、多くの痛みと病を負ってくださった我らの主イエスが立っておられるのは、最も弱く見える部分の傍らなのであり、そしてその部分が共同体の中で一番大切なのだとパウロは強調します。そしてそこからイエス・キリストの体と言われる共同体形成が始まってゆくことを、パウロは宣言しています。

主イエスはどんな教会共同体においても、このことを成就させようとしておられ、そしてそのような力が、どんな教会の根底にも流れていることを想わされます。最も弱く見える部分から大切にされる交わりが生み出されてゆくなら、そこはそのままの自分で安心していられる居場所です。小さく弱い部分もある私たちが、イエス・キリストの体のかけがえのない一部分として、互いに敬い心配りし合いながら、この世界に主イエス・キリストの体を、主の平和を証していく群れとなれますように。